



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充滿 ・ 献身 ・ 奉仕

〒181-0011 東京都三鷹市井口3-15-6 池の上キリスト教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

「ただ、お言葉を下さい」

マタイによる福音書八章五節〜十二節



日本基督教団 引退牧師

有馬 歳弘

山根可式牧師と地区アシュラムにご一緒した時、共に朝の祈りをした時のことです。「有馬さん、今日いただいた御言葉は何ですか」と聞かれました。先生の池の上教会における、信徒への信仰の養いのご様子に触れました。岡田實牧師は、長老のお一人が「やつと信仰が解りました」と言った時に「まだ信仰は解りませんよ」と答えられました。主イエスの恵みの豊かさ、そう簡単に解つてしまえるようなものではなく、もともと信仰が必要だと言いたかったのでしょう。マタイによる福音書8章5節以下に、百人隊長が主イエスに中風の僕の病を癒していただきたいと願った物語があります。主イエスを自分の家にお迎えするのは、畏れ多いことと思ひ、「ただ、お言葉を下さい」と願ったのです。自分は権威のもとに生きていて、部下に命令すると彼らはその通りに実行する……だから主よ、「ただ、お言葉を下さい」それで十分です。主イエスは感心して「イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない」と言われました。主は百人隊長の信仰に驚かれました。しかし、他面イスラエルの中にこれほどの信仰を見ることができないと嘆かれています。つまり「信仰が問われています」。主イエスは信仰をお問ひになります。

弟子たちはどうであったのか。主と行動を共にし、人々に語られる生の言葉を聞き、直接自分たちに言い聞かせられた言

葉を受けてきました。従う喜びに溢れていました。ところが、主イエスご自身が人々の手によって十字架につけられ、殺されることを明確に知らせられた時、弟子たちは分からなくなってしまう。そんなことがあるはずはない、あつてはならない」とペトロをはじめとして弟子たちは思ったことでしょう。いつの間にか自分の常識が幅を利かせるのです。ところが実際、主は人の手によって十字架につけられ死んでおしまいになりました。ますます理解できなくなり逃げてしまいます。信仰は自分の理解に奉仕するのではなく、主イエスご自身の権威の中において信じる時、力を持つてくるのではないのでしょうか。そんな弟子たちを解放した事件こそ、主イエスの甦りです。父なる神によって死から命に甦られた。これこそ全ての力を超える神の力です。

「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です」（1コリント1章18節）。私は「ただ、お言葉を下さい」と願う者です。信仰はまだ奥が深い、神の恵みは深淵です。



想

霊

パウロのエペソ伝道の

労苦と忍耐

日本同盟基督教教団

大分恵みキリスト教会 牧師

岡山敦彦

今年の2月に2週間、イスラエルとトルコのツアーに参加しました。イスラエルからの帰路、トルコのイスタンブールに古くからの友人が10年ほど住んでいるので、トルコの案内をお願いしましたら、快く引き受けてくださいました。イスラエルは以前にも行ったことがありましたが、トルコは初めのこともあって、その印象は強烈でした。

私は今年になってヨハネ黙示録の7つの教会の説教をしています。今回のトルコツアーでは、7つの教会のうちラオデキヤとエペソ、そしてヒエラポリス（コロサイ書4章13節）も訪ねることができました。

パウロはコロサイの教会に手紙を書いています。パウロは、教会跡を始めとして遺跡はほとんどありません。小さな遺跡の丘（テル）があり、その入り口の小屋にひとりの老人の守衛がいるだけの寂しい場所でした。

一方右記の3つの町の遺跡、教会跡のスケールの大きさには圧倒されました。エペソは遺跡の発掘が進んでいます。ラオデキヤとヒエラポリス

はあまりにも広大で、これからさらに発掘が進んで行くことでしょう。

いずれの町にも、円形劇場があります。ギリシャ・ローマ時代に造られています。そのスケールの大きさに圧倒されます。ローマは建築に優れていたことは知っていましたが、ローマ帝国が統治していたトルコの諸都市にこのような円形劇場が造られたことを改めて知りました。エペソの円形劇場はほぼ修復が終わっていて収容人数は2万5千人ですから、その場に立つと改めて驚きを禁じ得ません。

エペソは、パウロが第2回と第3回伝道旅行で立ち寄った所です。第3回伝道旅行では、3年間そこにとどまって伝道しました。彼の福音宣教は大いに祝福され、エペソを中心にアジア全体（今のトルコ全体）に福音が伝えられました。エペソにはギリシャの神々をまつる神殿があり、アルテミス神殿のご神体は大女神アルテミスでした。アルテミス神殿の銀の模型を作って商売をしていた親方がデメテリオでした。パウロが「手で作った物など神ではない」と言ったために、彼らの土産物の模型はほとんど売れなくなり、商売が大打撃を受けました。そして暴動が起こったのです。町中が大騒ぎになり、人々はパウロの同行者ガイオとアリスタルコを捕らえ、一団となって劇場になだれ込んだと記されています。パウロは、集団の中に入って行こうとしたが、パウロの命の危険を

察知した弟子たちが彼をとどめました。この劇場が2万5千人収容の円形劇場だったのです。パウロは数人の弟子たちと共に3年間、エペソで伝道しました。これほどの成果を上げたのは驚きです。しかし、パウロたちが伝道の成果を上げたとはいえ、エペソはギリシャ・ローマの異教の神々の中心地でした。そこで宣教することは、私たちの想像をはるかに超えた困難がありました。パウロが去った後も困難は続きました。使徒ヨハネはエペソの教会に向かって「あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている」（ヨハネ黙示録2章2節）と記しています。

今回のツアーで教えられたことは、パウロが困難の中で伝道に邁進して成果を上げることができた背景には、聖霊の大きな助けがあったことです。パウロが偉大な伝道者であっても聖霊の助けなくして、困難な宣教はなしえませんでした。私たちは日本の異教の地で伝道していますが、パウロはもつと困難な地で労苦と忍耐を持って伝道に励んだことを教えられました。その背景には聖霊の助けがあったのです。



エペソの円形劇場

九州地区支部報告

日本同盟基督教団

大分恵みキリスト教会牧師

委員長 岡山敦彦 (理事)

九州地区のアシユラムの歴史はかなり古く、今年も9月に第53回九州アシユラムが開催されます。私が初めて参加した九州アシユラムは今から30年以上前のことです。私が北九州市小倉南区で開拓伝道をしていた時、信仰の父、先輩として尊敬していました山本繁夫牧師に誘われての参加でした。その後、九州アシユラムの委員長も何人かの先生が引き継がれ、会場も何度か変わりました。しかし、アシユラムの精神、スピリットは変わることなく引き継がれています。

私は前委員長・鍋倉勲牧師から委員長を引き継いで10年ほどになります。それまでは長年事務局として裏方の奉仕をしてきました。九州アシユラムのメンバーも私が参加した頃のメンバーと全く変わりました。多くの方たちは、主のもとに召されました。しかし、主は新しい方たちを送ってくだかって継続されていますので感謝しています。毎年20名ほどの方たちが、一年間待ちに待って楽しみにして参加してくださいっています。会場は、福岡黙想の家(宗像市)を10年以上使用しています。ここはカトリックの静かな施設です。私たちが独占的に使用することができ、交通の便も良く、アシユラムの会場

として最適です。集会所、グループの交わり、また個室が与えられていますので主との個人的な交わりも十分にすることができます。

昨年9月17、18日、九州アシユラムを開催予定でした。講師に榎本恵師をお願いしていましたが、ところが台風の接近でやむなく中止となりました。今年は、9月16、17日、同じ場所、同じ助言者で行うことにしています。

私は今年から委員長と事務局を兼務し、日本アシユラムの機関紙も担当することになりました。主から背負うようにと命ぜられた奉仕として全うできるようにお祈りください。

アシユラムに参加して

日本基督教団 新宿西教会 信徒

守部喜雅

所属する教会がアシユラムの会場であり、ある国の兄弟姉妹を訪ねる旅をどうすべきか祈り導きを求めていた時でもあったので、一日、神様のことに浸ることは大きな恵みと感謝して参加しました。担当された先生たちが、祈りの中で準備されたメッセージ、証、みことばは私の内側に深く語られ探られる一日となりました。午後、福音の時に、ルカ6章から、イエスが十二弟子を選ばれた時の事が語られました。「十二使徒は後に教会を形づくりご用をされた人たちです、その教会に今、繋がっている私

ちも弟子の一人とされた」との言葉が語られた時、この旅に対して恐れを持って躊躇している私に神様が備えて下さっていると励ましを覚えました。私はある国の宣教の働きに加えて頂いているのですが、自分の性質の問題、能力や決断力のなさを思っては劣等感がチラチラと頭をもたげ、自信がなくなる時があるのです。「イエス様は、一人ひとりの弱さや足りなさを神様の前に持ち出しながら、会話するように祈りに祈り、夜を明かされた。夜を徹して祈られた。そのようにして神様は私たちをも選ばれた。小さな小さな存在・・・、けれどあなたも大きな神様の歴史を担っている存在」と語られた時、私には不釣り合いな言葉と考えるのに、心にドン！と届き、「あゝ、私もその一人にして下さっている」と、受け取ることが出来たことが感謝でした。ペテロに、「follow me!」と語りかけたイエス様が、私にも「follow me・あなたのためにわたしは深い祈りを重ねてきたんだよ、いつも共にいるよ、だから従ってくださいなさい」と語りかけと励ましを与えて下さったのです。今、私の前に備えられている、かの国への旅は「鎖につながれ、うごめいている人のいる向こう岸に渡る」ということでもありません。今回のアシユラムは、弱さしかない私が、その決断をする力を頂いた時でもありました。

第49回城北アシュラム報告

日本基督教団 新宿西教会 信徒

川村秀夫

2018年2月12日、新宿西教会にて第49回城北アシュラムが開催されました。当日参加者を合わせて53名でした。

開心の時、杉本和生さんから（ルカ18章35〜43節）「わたしに何をしてほしいのか」とのイエスの問いかけを頂き、健康の問題、家庭の問題、信仰の継承の問題、教会の将来の問題、アシュラムの将来などのニードが発表されました。

8分団に分かれ第1回目の祈りの細胞の時を持ちそれぞれのニードを分かち合いました。

写真撮影の後、昼食会が開かれ、教会紹介、個人紹介などが行われ、和やかな歓談の内に昼食会を終えました。

静聴の時は天門教会の貴村かたるさんに導いていただき、マタイ6章を10分間ほど静聴しました。静聴によって与えられたみ言葉とその人が受けた恵みを分かち合いました。その後、感謝の献金を捧げました。

福音の時は有馬歳弘さんがルカ6章12〜13節「弟子となしたまえ」とのテーマで私たちに助言を下さいました。イエスは裏切り者のユダまでお選びになりました。これらのことを通して「弟子となしたまえ」とはどういうことなのかを教えてくださいました。そして幾つもの助言を頂きました。日常生活で行動・行為をする

際、私たちは自分から始めていると思って主語が「私が・・・」となることが多いのですが、これを「神様が」と変えて言うことを勧められました。そこには自己中心も、自己満足もない素晴らしい世界が展開します。2回目の祈りの細胞では多くの方のニードがこの時まで頂いた恵みによって解決の道が開かれたことと思います。

充滿の時は山口紀子さんのシヨートメツセージの後、全員が輪になって各自が受けた恵みの分かち合いを行いました。充実した1日を過ごすことができました。感謝いたします。



常任理事会が開催されました

3月20日、事務局である池の上キリスト教会で常任理事会が開催されました。

昨年、お怪我をされ、入院手術、そしてリハビリ中だった横山義孝理事長が完全回復され、出席されました。

礼拝ののち、アシュラム誌、理事組織、規約の確認等、各支部等についての報告の確認を致しました。

(事務局記)



アシュラム予告

●第53回九州アシュラム
とき 18年9月16日(日)〜17日(月)
会場 福岡黙想の家

助言者 榎本 恵師

●第52回関西アシュラム
とき 18年9月23日(日)〜24日(月・休)
会場 母の家ベテル

助言者 未定

●第53回関東アシュラム
とき 18年9月17日(月)〜19日(水)
会場 箱根山崎製パン箱根山荘

助言者 西海満希子師

●第50回城北アシュラム
とき 19年2月11日(月)
会場 池の上キリスト教会

助言者 未定

【編集後記】アシュラムは次の世代にキリストの恵みを伝えるエネルギーを持っています。これから開かれる各地のアシュラムに祝福が与えられますように祈ります。